研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-133		20-064	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Parental drinking according to parental composition and adolescent binge drinking: findings from a nationwide high school survey in Japan
親の構成に応じた親の飲酒と青年期のアルコール暴飲:日本国内の全国高校生調査から得られた知見

執筆者

Inoura S, Shimane T, Kitagaki K, Wada K, Matsumoto T.

掲載誌

BMC Public Health. 2020 Dec 7;20(1):1878. doi: 10.1186/s12889-020-09969-8.

キーワード	PMID
親の飲酒、家族構成、暴飲、青年、高校、学校調査	33287791

要　旨

目的：親のアルコール問題は、思春期の子どものアルコール誤用に影響することは明らかになっている。しかし、一般集団における親の飲酒状況と子どもの思春期の危険な飲酒行動（暴飲含む）との関連については、先行研究の結果が一致していない。本研究では、日本全国の高校生を対象に、親の構成および親の飲酒状況と暴飲との関連を検討した。

方法：国立精神衛生研究所が 2018 年 10 月-2019 年 3 月に実施した「薬物使用とライフスタイルに関する全国調査」のデータの 2 次分析を行った。対象者は無作為に選ばれ（140 校 116,313 人の高校生)、回答があった 78 校 47280 人（56%）のうち、有効なデータを得た 46,848 人を分析対象とした。一般化線形混合モデルを用いたロジスティック回帰分析により、先行研究で思春期の暴飲との関連がみられた共変量で調整した「子どもの暴飲」と、「親の構成と飲酒状況（父親が飲酒、父親が不在、母親が飲酒、母親が不在、両親が飲酒、両親とも家にいない)」との関連を分析した。不在は、単身赴任や、死別、別居、離婚を含む。また、暴飲の定義は、過去 1 か月間の 1 機会における 2 時間以内の飲酒量が、男性では 5 杯以上、女性では 4 杯以上とした。

結果：母親が飲酒している子どもは、そうでない場合と比べて暴飲リスクが有意に高かった（調整オッズ比 [AOR]: 1.37, 95%信頼区間 [CI]: 1.21–1.57)。母親が不在の子どもは、そうでない場合と比べて暴飲リスクが有意に高かった（AOR: 1.96, 95% CI: 1.40–2.76)。父親不在と母親不在の子どもの暴飲リスクへの関連において、交互作用を認めた（$p<0.001$)。

結論：母親の飲酒や不在は、青年期の子どもの暴飲に影響を与えることが示唆された。青年期の暴飲を防ぐためには、思春期の過度の飲酒を予防するためのプログラムや介入に親および親以外の家族を参加させることが重要である。